

アート、みつけよう！福岡のアート情報誌 [wa]

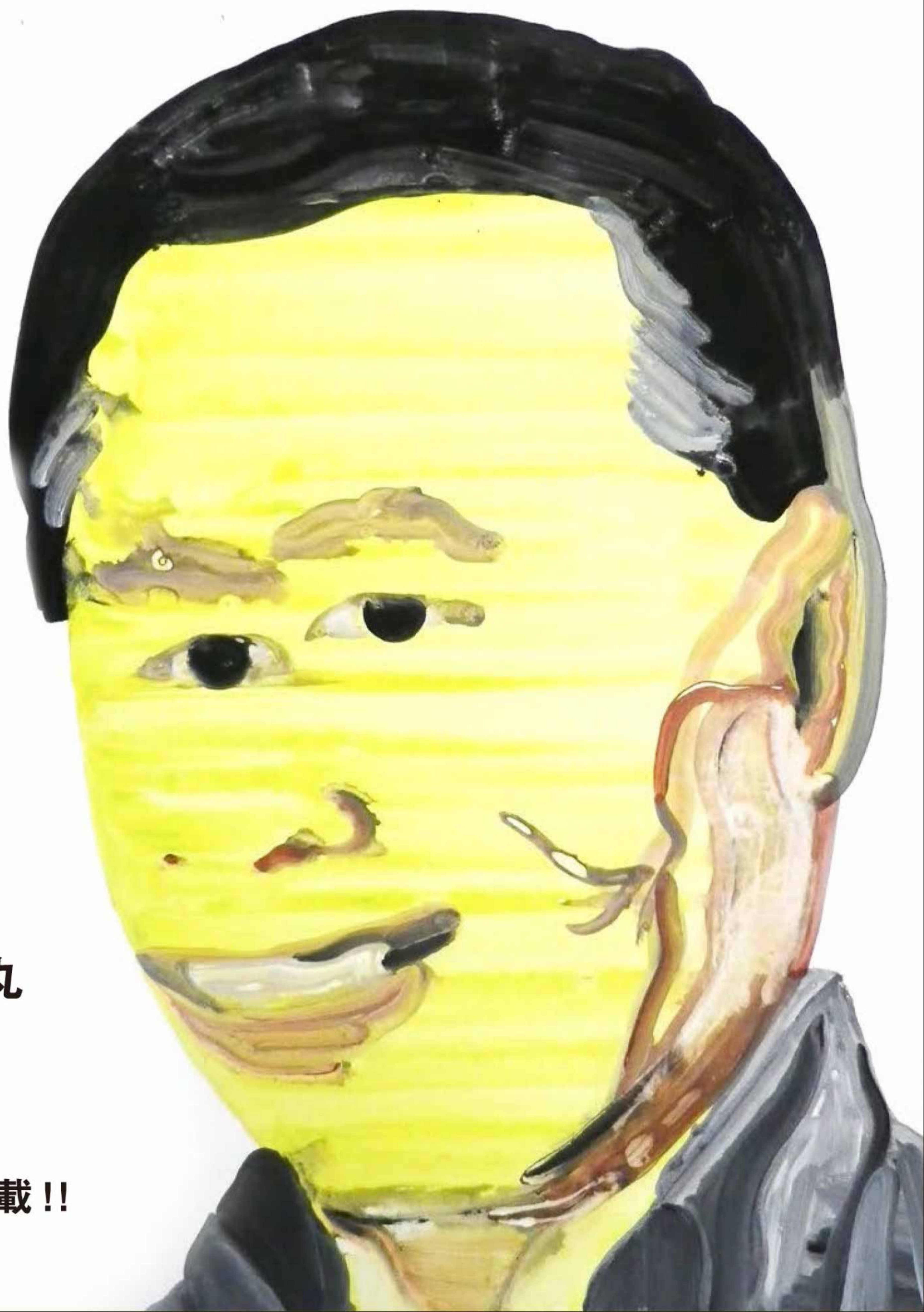
VOL. 65
2015
SPRING

LIFE IS ART 博多華丸

伝統文化 博多曲物

ART EVENT CLIPS

春のアートイベント満載！！





COVER ARTIST
生島国宜 ixima kuniyosi

PROFILE////////////////////////////////////

画家。2003年武蔵野美術大学卒業。2014年にはファッションブランドDiorの企画展『Esprit Dior』にて創業者Christian Diorの肖像画を委託制作。パフォーマンス、インスタレーション、イベントオーガナイズ、展覧会企画なども行いながら絵画と美術を基にその周辺を模索している。現在、福岡市在住。

Q 作品づくりの面白さって？

“絵の都合”っていうのか、隣合わせに塗った色同士の反応が予想外だったり、それが面白くて…絵を育てていく感じかな。それから、アートって自由すぎるから、「これが私のやり方です」と提示する事も大事だと思っています。

Q 作品のアイデアはどんなところから？

釣りみたいなものかな。日々、アイデアを求めて、釣糸を垂らしているんだけど、ふと、アイデアがひらめく感じが、魚が釣れたって感覚に似てるんじゃないかな〜って。

Q 福岡で制作し続ける理由は？

世界からみたら、福岡も東京も一都市だし、今は福岡にいても国内外との交流に不自由は感じてないですね。福岡では天神周辺に多様なカルチャーが集中していて、色んなジャンルや考え方に会えるチャンスがたくさんある。みんな刺激しあうことを求めている気がするし、僕の作品にも影響を与えてくれます。

Q アーティストとしての展望は？

これからも相変わらず絵を描いていきたい。福岡のアートのマーケットが発展して、芸術作品の地産地消みたいなことが出来るようになったら素晴らしいかな。



「過去と未来は存在しない」



「オートミール」



「咳止めシロップ」

アーティスト情報 <http://iximakuniyosi.blogspot.jp/>



VOL.65 SPRING
CONTENTS

- 02 COVER ARTIST
生島国宜
- 03 LIFE IS ART
博多華丸
- 04 Inspiring Talk
幅を広げる、未来へ旅する。
Lifemapの進化論
樋口 龍二×竹口浩司
- 07 季刊 福釜藝術放談 (11)
表現者の原点に立ち返る意義
- 08 愛でたし伝統文化
第三回 博多曲物
- 09 ART TRIP in KYUSHU
筑豊
- 10 ART EVENT CLIPS
PICK UP MOVIE
「パレードへようこそ」
- 11 <コラム> 福岡ギャラリーさんぽ
konya-gallery (紺屋2023)
- 12 セリフからはじめる演劇の話
「私の得意技、歌う捜査法です。
のべつまくなし歌います。」
木下智之
- 13 <コラム> おしゃべりな学芸員
福岡市美術館 鬼本佳代子
- 読者プレゼント
- 14 FFAC INFORMATION

表紙：「カンフー的なイメージの」 ミヤケファインアート蔵

福岡での活動は僕の生命線 今回の舞台で燃え尽きます！



博多華丸

今やTVで顔を見ない日はない、
大人気お笑い芸人・博多華丸さんの
今に突撃！

コミカルな表情と博多弁の言い回
しで稽古中もあちらこちらから笑い
声上がる、それでいて泣かせるシー
ンもしっかりと演じきる華丸さんは、
舞台初挑戦とは思えない白熱の演技
をみせる。

Q ドラマに続き初挑戦の舞台ですが、
今回の舞台の魅力を教えてください。

TVドラマも、結構大変だったん
ですが、舞台は本当にやり直しが出
来ない、(セリフを) 忘れたら、「はい、
それまで」ですし、どっちが緊張す
るかと言うと舞台のほうがかな、でも
その緊張感ゆえに観ている人に楽し
んでもらえると思います。

Q 「博多っ子」を演じることで、あら
ためて気づくことや工夫しているこ

とはありますか？

厳密に言うくと、僕は「福岡っ子」
なんですよ。博多の人から言わせ
ると、「お前んとはほんとの博多弁や
なかつ！」って言うわけですよ。

仰るとおりで、僕のは福岡弁で、い
わゆる真の博多弁ではないので、僕も
それに対して「何がですか？」と言
つてもないし、歯向かう気もないの
で(笑)。幸い台本の言葉はしっかり
博多弁。僕もこういう風に言うんだ
と思うくらいいきちんと書いてあるの
で、その通りにしゃべって、なるべく
波風立てないようにやっている感じだ
すね(笑)。言葉に関してはわりかし
デリケートにやっていますね。

Q 舞台や漫才を博多弁でやる、華丸
さんを通じて福岡の言葉や文化が全国
に発信されていますが、何か思い入れ
はありますか？

昔話をする、高校生の時に「愛し
あつてるかい！」というドラマで陣内
孝則さんが、たまに博多弁でしゃべ
るのを見て、「これいいっ」て思って、「僕
もいつか東京のテレビで博多弁でしゃ
べりたい」って思ったのがはじまり。
吉本に入ってから、漫才を作るとき
のお手本が関西弁なので、どうしても
関西弁風の漫才になってた所を、吉本

の方から、「関西弁禁止、博多弁でや
れ」と言われて、博多の言葉でずつ
と貫いてきたんです。でも、ウケる
のは関西弁だっというのもあるん
ですよ。(関西弁とは) 漫才の作り方
の文化や歴史が違いますからね。そ
の当時は大変でしたが、試行錯誤の
上に、現在があります。ずっと続け
てきたおかげで、今認知してもらっ
ているので、よかつたなあと思いま
す。

でも大変ですよ、たまに福岡で飲み
よったりしたら、「あんま博多弁でしゃ
べりやらんね」 「東京染まっとうろ
う」とかすぐ言われるんで(笑)。僕
らとしては、伝わらんことにはしよ
うがないから、そういうプレッシャー
と東京のテレビ局の事情と、その板
挟みって感じですね(笑)。

Q 今や全国で大人気の華丸さんですが、
福岡での番組にも出演、活動を続ける
ことへのこだわりを教えてください。

いやいや、もうそれはもちろん、
生命線ですから。それ切ったら、命

がもう…。

東京で仕事出来るのも、福岡に帰っ
て…車で言えばガソリン積んで、ま
た東京戻って、ガソリン切れるまで
東京でがんばって…。福岡は「ホット
ステーション」ですからね。

Q 活動の幅をどんどん広げていま
すが、今後の活動の抱負をお聞かせく
ださい。

博多座終わったら、僕はもう暫く
は余韻に浸るんです。もう、それ以上
多くは望まないです。もう十分です。
老後に向かって、まっしぐらです。
舞台で燃え尽きます。髪の毛真っ白
になって、あしたのジョーみたいに。
はい(笑)。最後の舞台のつもりなので、
是非、観に来ていただきたいと思
います！

Q 福岡の方や地元で活動中のア
ーティストへのメッセージを。

福岡が盛り上がることは、嬉しい
事です、みんなで盛り上げていき
たいですね、力を合わせてがんばり
ましょう!!



「めんたいびりり～博多座版～」
絶賛上演中！ 3/29(日)まで

博多華丸 ●1970年生まれ。福岡市出身。90年から、お笑いコンビ博多華丸・大吉として活躍し、ソロでも児玉清や川平慈英のものまね等で人気。全国ネットの番組多数で活躍しながら、福岡でのレギュラー番組出演にもこだわる。めんたいびりり(テレビ西日本)のTVドラマで主役を務め、同タイトル～博多座版～では初舞台に挑戦。

Inspiring Talk



幅を広げる、未来へ旅する。 Lifemapの進化論

障がいのある人たちの芸術活動を通し、社会におけるさまざまな既成の“価値”や“枠”を捉え直すことを目的としたプロジェクト「Lifemap」。プロジェクト代表の樋口龍二さんを中心に、展覧会や舞台公演を通して「一人ひとりの『地図』が少しだけ塗りかえられる小さな変化」を促すきっかけを生み出してきました。2014年12月には、公募により集まった13人の障がいのあるアーティストたちと共に舞台公演「シンドローム」を制作、発表しました。プロジェクト初年度には学芸員としてワークショップに関わったり、観客として作品を見続けてきた、竹口浩司さんに、Lifemap制作の根底から沸々と湧き上がる思いや魅力を引き出してもらいました。

舞台芸術の既成概念を覆された

▼樋口 「Lifemap」は平成19年度から継続している事業です。最初は美術作品の展覧会が中心だったんですが、25年度から舞台公演という手法に挑戦しました。竹口さん、今年度の作品観てどうでしたか？

▼竹口 すごく染みましましたね。「フラグ」（昨年度の舞台公演）の感動があるからストリートに見られない気持ちがあったんだけど、予想以上に早く泣いてしまいました（笑）。

一人の演者が自身の障がいについて悩みを打ち明けて、もう一人の演者が話しを聞くというシーンで、最後に全然関係のないセリフが出てきた時に「おや？」って思ったんです。親密な対話として成り

Lifemap プロジェクト代表

樋口龍二



福岡県立美術館 学芸員

竹口浩司



「シンドローム -Lifemap-」(2014年度) photo by Akiko Tominaga

立っていると思っていたらそんな肩すかしがあつて。それでもう一度演者が変わって同じシーンが繰り返されたところで：自分でもよく分からないんだけど、その瞬間に号泣。うわーって。それと同時に、もう一度繰り返されるだろうと客観的に想像している自分もいて。：でも3回目はなかった。

▼樋口 実は、あれ3回繰り返す構成だったんですよ。『シンドローム』のほとんどのセリフって、練習中に出てきた自分の言葉や詩を自らしゃべるといってものだったんですが、あのシーンのセリフは他の演者から出てきた言葉を繰り返す構成なんでね。それで、稽古中にどうしてもセリフが詰まってしまう演者がいて、「自分の言葉じゃないから出てこない」ということだったので、急遽2回構成にしました。

▼竹口 同じシーンが3回繰り返されるというのは多分、舞台のセオリーのひとつだと思っただよね。繰り返すことで、少しずつ意味がズレながらも深くなって、3回目ようやく落ちるみたいな。だから2回で終わった時に、泣きながらも「あれ？ここで終わり？」みたいな(笑)。

▼樋口 もっと泣かせてくれないの？って感じですか(笑)。

▼竹口 そうそう。そこで構成や脚本とかに、まだ未成熟なところが残っているのかなと。舞台のプロスタッフ関わっているのに、セオリー通りにいかなかったのは、演者の判断が優先されたのかもしれないと思っただし、同時に僕が既成概念

を持つて舞台を観ていることにも気付かされて。多くのお客さんはその「生っぽさ」があるからゆえに、一緒に舞台を作っていく感じを体感していて、次はどう来るんだろう？ってすごく期待していると思うんですよ。

直接伝えるということの大切さ

▼竹口 作品の内容だけじゃなく、メンバー同士の関わりにも変化してありましたか？

▼樋口 そうですね。6月のオーディションから約半年、出演者と企画メンバーは関わっていく訳ですが、前回の「フラグ」の時は練習場でのコミュニケーションやその都度の対応を、(福祉に携わる)僕らが皆から助けを求められたんですよ。今回は、「思ってること直接言ったらいいじゃん」って声をかけたんです。お互いに言いたいことを言い合う感覚が、この社会の中で大事だと思つて。演者と企画メンバーが、長く一緒にいるから見えなくなっているよ。うで実は存在している壁を取り除いていくことも、すごく大きな変化でしたね。

▼竹口 2年目にして企画メンバーと演者の壁がとれたっていう感じですか？

▼樋口 そうですね。今回は喧嘩もあつたし、ぎくしゃくしたり、ちょっと学園ドラマみたいでした(笑)。僕はそれが楽しくてしょうがなかった。そういう時間を彼らと積み重ねたかつたし、その中で何ができるのか、何を表現するのか、そ

して何を見せたいのかというのを彼らに探つて欲しかったんです。

僕も障がいのある人たちと付き合うことによつて、自分のキャパシティが広がった実感があるので、おせっかいなだけでなく、そういうのを共有していきたいんですよ。それが広がっていけば、社会で障がいのある人たちが生きにくいという状況が無くなっていくんではないかと思つたりするわけです。

違つてことを楽しむ

▼竹口 ビジュアルアーツからパフォーマンスアートへと大きく方向転換したのは、何か目的があつたんですか？

▼樋口 僕らが「Lifemap」の活動を始めた頃の障がいのある人たちの芸術活動は、絵画作品が主流だったんですね。その中で、僕らは「アート作品って素晴らしい」という評価よりも、なんか揺さぶられるとか、懐かしさを感じられるものを選んできていて。「Lifemap」というタイトルも、作家が変わるのではなくて、社会の中が変わらないといけないんじゃないかと考えていたんです。それは障がいに対しての見方だけじゃなくて、「違つてことを楽しめる」といった価値観をもつと作っていききたいなと。

喜びを彼らと共有したり、生み出す時間を共にすることで、社会が変わるだけでなく本人にももつと社会参加しようとする意識が生まれるだろうなつて感じて。じゃあ、一から作るところから一緒



「フラグーLifemapー」(2013年度) photo by Road Izumiyama

にやれるものってなんだろうと考えた時に、パフォーミングアーツをやってみようと思ったんです。絶対条件として、「自ら表現したい」意志を持った演者と一緒にやりたいということ、オーディションを開催しました。

▼竹口 一緒に時間をより長く過ごせるかたち。つくられた作品そのものよりも、作品をつくっていくプロセスの中で喜びを共有したいからパフォーミングアーツを選択したというのは面白いね。

未来へと歩む旅

▼樋口 福祉の現場の話をする、彼らが自立するための支援をするという二者関係になることが多いんだけど、その中で大切なのは「対話」だと思っ

すよね。その対話の先には多分未来や目的があつて、そこに向かって一緒に歩むことをイメージしないと、ただの説教や指導になっちゃう。例えば、「ちゃんと座って絵を描く」という小さな枠の中の指導じゃなくて、「この絵をどうしていきたい」とか「どんな絵を描きたい」のかを話しながら一緒にすることは、一緒に旅をするような感覚があつて、「Lifemap」もその考え方。「Lifemap」メンバーと一緒に旅をしている人たちなんです。

▼竹口 旅ですか…。行き先はみんな考えてればいいということですね。

▼樋口 そう。でも、あっち方面に行ったら楽しいだろうな。ベクトルが決まれば、次は幅を作ることが大事。最短距離

で進むのではなく、あっち行きながらもこっちなねって幅を拡げていくことで、一緒に歩む人たちも増えていくように感じます。

ほころびが両者をつないでいく

▼樋口 来年の企画も考えてるんですけど、毎回イメージ通りにはいかないんですよね。でもそれも僕は大切にしていきたい。その「うまくいかなかった」事実の意味があつて、それも含めて表現の中でなにかしら伝えていけるようになったらいいな。立派にするとか、よく見せるとかではなくて。苦しかったりうまくいかなかったというのもちやんと見せられたらなと思います。

▼竹口 企画メンバーは、いわゆる表現のプロもいる専門家集団だと思うんですよ。だから多分、パフォーマンスとして優れていた、クオリティの高い作品を作ることにはできるんですけど、そういう評価に捕らわれず、常に「ほころび」をそのままに見せてほしいな。それってすごく、勇気があるんだけど、その「ほころび」を観客側が掴んだり、作っている側も予期しない発見があつたりと可能性を感じるんですよ。

いろんなかたちで関わっている人すべてが、その場で得た気付きをそれぞれに生かしていく、つないでいく風景を、今後も見たいなと思います。

▼樋口 僕この業界に入って、障がいや福祉の持つ重いつな暗いイメージを、ま

すよ。そういう意味で、ボケたりツッコんだり。それを続けて、3年前に「まる」が15周年を迎えた時に、次は障がいのある人の表現を「いいねいいね」だけでなく、深くせないかん段階に進めていかないと、って思ったんです。次は、さらに深くとは思っただけど、最終的にはまた「愉快」に戻りたいんですよ。軽いままでの愉快だと、安易に他者を傷つけたりするから、深くした上での愉快。そういうのをやれたらいいな。だから「Lifemap」の究極は、お笑いかもしれないなって思ってるんですよ(笑)。



竹口浩司

2000年から福岡県立美術館に勤務。2007年のLifemap第1回展で樋口さんから「くすぶってるように見えるから」とワークショップのファシリテーターとして誘われる。以来スタッフとしては関わっていないが、何となく仲間意識が芽生えてしまって気付けば全回観てしまっている。おかげで(ままと?)わたしの「地図」も少しずつ塗りかえられつつある。



樋口龍二

1997年、染色会社在职中に福祉作業所「工房まる」と出会い、障がいのある人たちの表現に魅了され即転職。作業所での日々の出来事を体感し、かれらの可能性を社会へ発信する欲望へと変わっていく。2007年に法人設立と同時に代表理事就任。同年よりスタートした「Lifemap」では、福岡を中心とした障がいのある人たちの表現をもとに、人や社会の価値観を心地よく揺さぶることを目的とした企画を開催中。

2014年度



「シンドローム-Lifemap-」

2014年12月6日(土)～7日(日)

ゆめアール大橋



photo by Akiko Tominaga

伏線の意味を持つ「フラグ」から始まったパフォーミングアーツの第二弾。出演者を再度公募し、「愛」をテーマに作品制作を行った。当初からの方針をさらに深め、「障がいのあるアーティスト」の記憶や想像から派生する動きや言葉を活かした内容となった。

2013年度



「フラグ-Lifemap-」

2014年2月1日(土)～2日(日)

FACTORY UNVELASHU
(ファクトリー アンベラシュウ)



photo by Road Izumiya

Lifemapでは初の舞台公演。表現したい意志を持つ“障がいのあるアーティスト”を公募して選抜された9名のアーティストと、福岡を拠点にさまざまな分野で活動する企画メンバーが、4ヶ月に渡り共同制作を行った。港エリアにある倉庫を改装した会場にて上演。

エイブル・アート事業スタート

2004年～2006年度 NPO法人まるに協力を依頼し、海外を含む全国各地の障がいのある作家を紹介する企画展を毎年開催

Lifemapスタート

2007年度 「コダワリノトキ コダワリノバシヨ」
「継続」をテーマに、福岡市内の障がいのある作家5人の作品を展示

2008年度 「私とワタシ」
「生きる」をテーマに、精神に障がいのある作家3人の作品を展示

2009年度 「テトテテノアイダ」
九州在住の障がいのある4人の作家の立体造形作品を展示

2010年度 「Life Map」
障がいのある作家の詩と、映像・音楽をコラボレートした作品を展示

2011年度 「note」
東日本大震災の被災地に滞在し、現地での取材をもとに制作された似顔絵や絵日記、映像作品を展示

2012年度 「Bolero」
海外(オランダ)の作家も含め、全国各地の障がいのある作家8人の作品展示

※ 作品展示だけでなく、さまざまな時間と空間を提供するべく、出展作家による公開制作、ギャラリートークや、参加型の展示ワークショップ、鑑賞ワークショップなども開催。

「Lifemap」公式ウェブサイト <http://lifemap.marulab.org/>

季刊

FUKU-BU GEIJUTSU HOUDAN

福 釜 藝 術 放 談

11 表現者の原点に立ち返る意義

福岡—釜山の芸術交流で、昨年一番のトピックスは演劇交流の本格化だろう。演劇は言葉を使う芸術。言葉以外の「共通言語」で国境を超えて伝わる回路を持つ音楽や美術などの芸術に比べて、母国語が通じない場所では表現を伝えるハードルが高い。

そこで、翻訳の「字幕」を使うことになる。日本でも、青年団やチェルフィッチュなど海外公演の多い劇団では「字幕込みで一つの作品」という感じで、演出家と翻訳家の入念な調整の上で「最善」の字幕を付けて作品を世界に向けて発表している。ただ、翻訳にも限界がある。昔、チェルフィッチュの「ホットペッパー、クラー、そしてお別れの挨拶」をソウルで観たが、セリフにも出てくる「ホットペッパー」という単語はそのままの音が韓国語に置き換えられていて、フリーペーパーとしての日本語のニュアンスがどの程度韓国人に伝わるのか、と思った記憶がある。

実は昨年相次いだ福岡—釜山の演劇交流で意外だったのが、この「字幕」への違和や抵抗感を多くの福岡の演出家や俳優が示していたことだった。たぶん、私は青年団などの洗練された字幕の付いた海外公演に慣れていて、自然と演劇の海外公演とは「字幕が付くもの」という先入観があったのだろう。一方、彼らは理屈ではなく、肌感覚で「字幕付きはなんか違う」と表明していたに違いない。

これは芸術家の原初的な生理だろう。もともと芸術家は言葉で簡単に表現したいことが伝わるのであれば、音楽にしろ、美術にしろ、言語以外の手段で表現する必要はない。彼らは言葉で表現しきれないことを創作を通じて示そうとしているのだから。言語の比重が大きい芸術である演劇の場合もまた、同じ母国語を話す観客に対してさえ、実は日常語では伝えきれない世界観を、日常語を揺さぶり、更新しながら提示しているはずなのだ。

福岡の演劇人たちは釜山との交流を通じて、この表現欲求に立ち返った。作品自体も、あえて字幕無しで公演にすることなどで「伝わらないことのもどかしさ」を観客も追体験する面が目立った。日頃、福岡という狭い地域で、演劇というさらに狭いジャンルの内輪的な観客へスムーズに伝わった気になってしまいうことに懐疑的になる機会になったのかも知れない。悪く言えば、ぬるま湯の環境で活動してきた福岡の演劇人が表現者の原点に立ち返ったことには意義があるはずだ。



内門 博

西日本新聞記者。近年はホン・サンス監督の映画に夢中。著書に『校歌をうたえば』(書肆侃侃房)。



愛^めでたし 伝統文化

第三回 博多^{まげもの}曲物



しばた とくごろう
柴田 徳五郎さん (88)

職人歴75年、88歳、博多を代表する曲物師。柴徳の愛称で、福岡市馬出でギャラリーと工房を併設した柴田徳商店を営む。無形文化財保持者。



【博多^{まげもの}曲物の基礎知識】

博多曲物は、杉や檜^{ひのき}の薄い板材を曲げ、板の端を桜の皮で綴じ合わせて作る容器で、飯びつ、茶びつ、弁当箱などの生活用品や、茶道で使う建水、菓子器などがあります。

博多曲物の起源は諸説ありますが、江戸時代より盛んに作られ、福岡市にある^{はこさき}筥崎宮の神具として、古くから奉納されてきた伝統を有しています。また、茶道具は今も人気があり、飯びつ、弁当箱はご飯がおいしく食べられると、その良さが見直されています。福岡市無形文化財に指定。

木彫の「柴徳」の看板がトレードマークの柴田徳商店は福岡市東区馬出^{まいだし}の路地に今もあり、工房兼ギャラリーを営む88歳現役曲物師柴田徳五郎さんに、曲物の成り立ちから職人としての生き方を語っていただきました。



ローラーをガスで温める仕組み。より厚い板を曲げる事ができる

杉の板から出る湯気が、差し込む午後の光を受けて、何ともほっこりする光景が工房に広がる。熱々に温められた長い板を次々と曲げ、真円を作る。「この力加減は慣れやね」板の両端を重ね合わせ、膝で挟みながら仕上げていく。飯びつの蓋の部分になる。お風呂ほどもある大きな釜で板を煮た後、特別なローラーの付いた機械で曲げていく。これは徳五郎さんの父徳三郎さんが考案した機械で、大量生産を求められていた頃の作業効率アップを企んだ代物だ。

馬出地区では約400年前から曲物作りが続いており、明治時代まで15〜16軒の曲物師の家が軒を連ねていたようだ。現在は、柴田徳商店ただ一軒となり、近

隣にはマンションが次々と建設され、曲げの工程に使用する釜の火を焚くのも「肩身が狭くなつたよ」と徳五郎さん。中国から桶の技術が伝わり、曲物に取って代わった。桶は構造上、端材で作ることができ安価に手に入るが、柾目の木材の節のない部分のみを使用して作る曲物は、庶民の生活から遠ざかっていった。「曲物は美術品ではなかつたよ」と本来、日用品として親しまれていた曲物を語る。



素早く真円を作っていく作業



板の色を保つには、鉄分を含まない井戸水がポイント

と、いつでもアイディアを探している。日用食器として使用されてきた曲物だが、文明の発達に伴い衰退していく中でも、世の中の流れに敏感に対応し、新たなオファーにもしっかりと応えてきた、なぜ徳五郎さんが曲物作りを続けてこられたのかの鍵がここにある。

親しみ深い笑顔で様々なエピソードを語る徳五郎さんに、「つい「物作りが好きなんですか?」と声を掛けたが、「好きとかそんななんない、親がしてきた家業をあたりまえにしてきただけ」と。人々の生活に寄り添い続け、職人が生きるために作り続けてきたもの。美術品なんて言われなくてもいい、日々みんなに手に取ってもらえるもの作りへ挑戦を続けている職人がここにいます。

店舗情報 柴田徳商店 住所：福岡市東区馬出2-22-22 TEL：092-651-0470 営業時間：10:00～17:00

ART TRIP in KYUSHU

筑豊

日本近代産業発展の原動力となった産炭地筑豊、かつて様々な文化の発信地でもあった。その活気を失ってもなお、人情味あふれるこの地域の、芸術に注がれている熱い思いを紹介しします。

街を作家を応援したい

画廊カンバス

直方レトロ地区にある昭和初期の雰囲気を残す町家建築で営まれる画廊。地元の作家を中心に週替りて作品発表の場を提供している。長年北九州で画廊として活動を続けてきたが、4年前に拠点を移した。「私が住んでる間は壊されないから」独自の文化財保護に取り組む、画廊オーナーの池田さんは筑豊のアーティスト応援団長だ。美味しい手挽き珈琲で一服。



- 毎月5日開催の直方五日市ではバナナの叩き売りを実演12:30～
- 4/5(日) 18:00～二胡コンサート

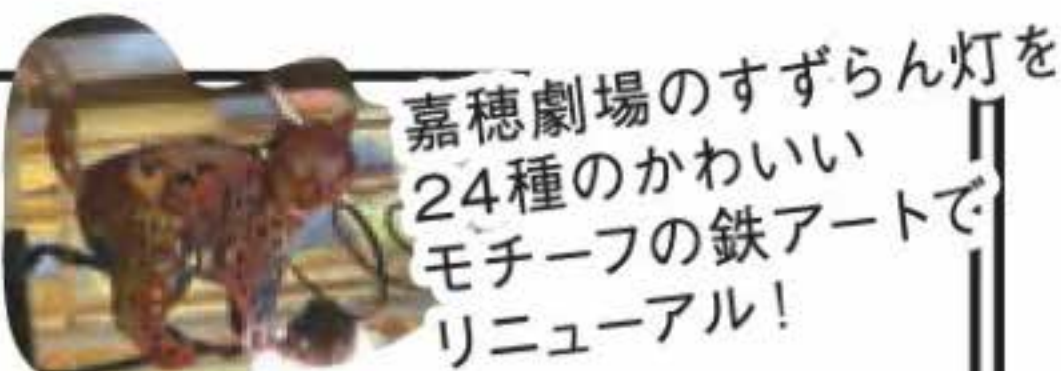
information

直方市殿町10-41 10:00～17:00 定休日:月・火・第二水曜
TEL:090-2859-2578

豊かな心、楽しいを広げたい

マサジアートギャラリー

アートは遠くから眺めるものじゃなく、みんなのすぐ近くにある、と語る、現代アーティストそのだ氏のギャラリー。鉄アートを始め、「未来に必要なもの」をモットーに、地元飯塚を中心に様々な場とのコラボレーション作品を展開。ギャラリーではかわいい鉄アート作品のほか、楽しい展覧会を随時開催!



チェック! <http://www.masajiart.gr.jp/>

- やすながまゆみ「パステルアート展」4/11(土)～4/19(日)
- 其田寿枝「目で見る占い展」5/23(土)～31(日)

information

飯塚市鯉田2299-5 11:00～18:00不定休(イベント会期中は無休)
TEL:0948-29-4877

共鳴したアートをあなたにも

トコポラ 筑豊田川

ネオ・ダダ作家 風倉匠の彫刻作品を臨む中庭のある開放的なモダンアートギャラリー。前衛芸術を築いた作家たちの作品コレクションを中心としたコンテンポラリーアートが必見。併設する医院に訪れる方々の心も癒す。福岡市赤坂のけやき通りにも「小さな作品をあなたに」をコンセプトにした姉妹ギャラリーを展開。



- ネオ・ダダ作品のコレクションを常時観ることが出来ます。

information

福岡県田川市大字伊田5000
9:00～18:00(月・金)、10:30～17:00(土・祝祭日) 休館日:日曜日
TEL:0947-45-1152 <http://www.tokopola.com/>

こんなところに!?

熱いアートをあつめる旅

「子どものための美術館」祝10周年

直方谷尾美術館

「子どものための美術館」と題して、毎年10名程度の子どもたちを募集し、一年間かけて展覧会を作り上げる取り組みを続ける。子ども自身が、時には作家になり、学芸員になり、ギャラリー解説員までやってしまう。また、老人ホームでの移動式ミニ展覧会などフィールドワークも多岐にわたる。集大成となる展覧会が現在開催中。展示作品は、子どもたちによる絵画や立体作品、「画家の思いも聞いてみたい」を実現させた作家との文通、楽しく鑑賞するための仕掛けも盛りだくさん。「私たちは入り口だけを用意するんです」と穏やかに語る学芸員 中込氏は、10年間情熱を注ぎ続けてきた、創作意欲を引き出すプロだ。直方市では、地域をあげてこの取組を応援。この活動が認められ、平成26年度 地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞。美術館とこんな風に付き合えるんだと驚かされる。



活動の様子

イベント

- 子どものための美術館 開催中～3/22(日)

information

直方市殿町10-35 9:30～17:30(入館は17:00まで)
TEL:0949-22-0038 <http://yumenity.jp/tanio/>
休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館)
一般:100円、高校・大学生:50円、中学生以下:無料、土曜日は高校生の入館無料
身体等に障がいのある方は入館無料(入館時に障害者手帳などをご提示ください)

産炭地の地形や風土を活かしたアイデアで挑戦

嘉麻市立織田廣喜美術館

炭鉱住宅を思わせる切妻屋根がどこか懐かしく感じさせる佇まいの美術館。彫刻作品が配された広大な芝生の公園が隣接、ぜひお弁当を持って訪れたい。「その物にある魂を描きたい」「楽しんで描こう」との思いで絵筆を握り続けた織田廣喜氏の作品は、どこかかわいらしくて、あったかい気持ちにさせてくれる。昨秋、美術館周辺地域の廃校をアート・ミュージアムに変身させるプロジェクトで若手作家たちと共にチャレンジした美術館の有江氏は、今年も企画中のプロジェクトで嘉麻市から世界へと発信すると意気込みを語る。赤い帽子がトレードマークの美術館。



新着情報をチェック!

<http://www.city.kama.lg.jp/odahiroki/>

イベント

- 春のコレクション展2015 開催中～4月19日(日)
- 第7回嘉麻市絵画交流展 4/25(土)～5/10(日) ※入場無料

information

嘉麻市上臼井767 9:30～17:30(入館は17:00まで)
TEL:0948-62-5173
休館日:月曜(月曜が祝日の場合は、その翌日)
館内整理休館日があります。(年4回)
入館料:一般:310円、高校・大学生:210円、小・中学生:100円、土曜日は高校生以下の入館無料 企画展などにより入館料を変更することがあります。

ふうじはちまんくうかわわたりじんこうさい

● 風治八幡宮川渡り神幸祭

田川市にある風治八幡宮に450年以上も続く歴史と伝統を誇る福岡県指定第1号の無形民俗文化財となったお祭り。豪華絢爛な神輿2基を先頭に、色とりどりの巨大なバレンを立てた山笠11台が、勇壮かつ華麗に彦山川を渡る様子は迫力満点。

○開催地:風治八幡宮、彦山川周辺 ○住所:田川市大字伊田 ○開催日:毎年5月の第3土曜日とその翌日 詳しくは <http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/>
【お問合せ】 田川市産業振興部商工観光課 TEL:0947-44-2000

- 世界記憶遺産に登録された絵師山本作兵衛氏の展覧会が6/6(土)～福岡市博物館で観ることが出来ます。(詳しくはP13へ)

① 筑豊美術館ネットワーク <http://chiku-net.sub.jp/>
筑豊の美術館三館がたちあげたネットワーク 地元の作家や様々な取り組みをご覧いただけます。(田川市美術館 直方谷尾美術館 嘉麻市立織田廣喜美術館)

*休館日等は変更する場合があります。お越しの際は事前にHP又は各お問合せ先までご確認ください。

ART EVENT CLIPS

池田龍雄展「我が心のメルヴェーユ」

3月14日(土)～4月5日(日) 入場無料
戦後アヴァンギャルド世代の第一人者として、いまなお革新的な制作活動が続いている。「絵とは何か。なぜ絵を描くのか。わたしは遂に解のないこの問題を、ずっと胸の奥に抱え込んだまま今もなお執拗に絵を描き続けている。」(池田龍雄)



ギャラリーモリタ

13:00～20:00 (月曜休廊)
福岡市中央区赤坂3-9-28 ロフティ赤坂2F
TEL:092-716-1032
<http://www.g-morita.com/>

灯籠によるインスタレーションと映像のコラボレーション、および舞踏 出演:斎藤秀三郎 黒岩俊哉 原田伸雄

5月5日(火)～17日(日) 入場無料
斎藤の個人的な「みじかなるもの」からの出発点と、黒岩の投影する「はるかなる」虚無と虚構の彼方、そして原田の舞踏のコラボレーション。



ギャラリーおいし

11:00～19:00 休廊日5/11 (月)
福岡市中央区天神2-9-212
TEL:092-721-6013

柴田高志「回帰」

3月30日(月)～4月12日(日) 入場無料
細密・モノクロームの線表現を用いた絵画による展覧会。100号の大作4点を中心に、他小作10点程で構成。

作家情報 <http://gorvaptica.com/>



アートスペース猿

11:00～20:00 無休 (最終日17:00まで)
福岡市中央区天神3-4-14-2F
TEL:092-781-9597
<http://www.artspacebaku.net/>

近藤康平「広がる色」

4月4日(土)～4月21日(火)

本誌「読み切りエッセイ」のイラストも手掛ける作家 近藤康平による九州初の個展。「色によって観る人の心が、広がりほどけていくような感覚をテーマとした展示」



▼作家情報
<http://kondokohei.net/>

古本と珈琲 coffon (4/4営業再開)

11:00～18:00 会期中 水・木定休
福岡市中央区警固3-1-28 アーバン警固301
TEL:092-725-3711

さかしようこ「Fukushima2011」

4月28日(火)～5月10日(日) 入場無料

100%手描きによるデジタル的表現を用いながらフクシマのことを考えていくシリーズの3回目。今回はペンキと油彩で仕上げます。



▼作家情報
<http://artuminaka.com/>

Gallery とわーる

12:00～19:00 (最終17:00まで) 月曜休廊
福岡市中央区天神2-8-34 住友生命ビル1F
TEL:092-714-3767

わたなべゆう展

3月28日(土)～4月12日(日) 入場無料

ドローイングとタブロー作品。1995年安井賞受賞。100年前の和紙にアクリル絵具、木炭、鉛筆、その他で制作しています。



ギャラリー尾形

11:00～19:00
福岡市中央区赤坂2-4-3 シャトレ赤坂2F
TEL:092-713-1835

宝塚歌劇雪組公演

5月2日(土)～5月25日(月)

早霧せいな、咲く妃みゆ、九州出身のトップコンビで贈る日本物の名作『星影の人』と魅力満載のショー『ファンシー・ガイ!』の豪華2本立て!!3/14(土)よりチケット発売!



©宝塚歌劇団

博多座

福岡市博多区下川端町2-1
TEL:092-263-5555

匠ギャラリー企画展 「みやまのモノづくり展」

3月23日(月)～3月29日(日) 入場無料

独特のものづくりの技術が受け継がれているみやま市。天然樟脳、国産花火、木蠟、きじ車等を約100点展示販売します。きじ車の絵付け体験等もあります。



アクロス福岡2階匠ギャラリー

10:00～18:00 (初日12:00から最終日16:00まで)
アクロス福岡文化観光情報ひろば
福岡市中央区天神1-1-1
TEL:092-725-9100

「林権澤監督と韓国映画」

4月1日(水)～4月19日(日)

韓国映画を代表する林監督の作品を中心に60年代から70年代の韓国映画を特集。上映作品:「族譜」「キルソドム」「春香伝」「酔画仙」など15作品を上映。



福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)※障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は250円(要手帳提示)
※「わの会」会員は250円。(要会員証提示)
福岡市早良区百道浜3-7-1
TEL:092-852-0600

KBCシネマ支配人によるシネマ案内

PICK UP MOVIE



2015年4月シネスイッチ銀座ほか全国順次公開

『パレードへようこそ』

5月
公開

1984年夏、炭鉱労働者のストライキのニュースを見たマークは、彼らの家族を救うために、ロンドンで仲間たちと募金活動をするという素晴らしいアイデアを思いつく。しかし、彼らが実はゲイの活動家だと知ると、寄付はことごとく断られてしまう。そこへ、勘違いから始まって、唯一受け入れてくれる炭鉱が現れた!ミニバスに乗ってウェールズ奥地の炭鉱村へと向かうがー。80年代のUK大ヒットナンバーに乗って、イギリス名優が熱演、トニー賞受賞のマシュー・ウォーカー監督が驚きの実話を軽快に描く。境遇や世代の異なる人たちが出会い、誤解や衝突を乗り越え、手を取り合って未来を切り開いていく姿に胸が熱くなる。心に刻まれる笑って泣ける感動の物語です。

第72回ゴールデン・グローブ賞ミュージカル・コメディ部門 作品賞ノミネート
監督:マシュー・ウォーカー 出演:ビル・ナイ、イメルダ・スタウトン、ドミニク・ウェスト 他

支配人 宮定貴子 / 福岡県出身。有楽興行に勤務後2001年より現職。年間約250本の映画を鑑賞する。
KBCシネマ <http://www.h6.dion.ne.jp/~kbcscine/> TEL 092-751-4268

福岡 ミュージアム ウィーク 2015

FUKUOKA MUSEUM WEEK 2015
福岡市内の 13 のミュージアムが参加!

5.16(Sat) - 5.24(Sun) 9 DAYS

その他、楽しいワークショップ等イベント盛りだくさん!

福岡ミュージアムウィーク で検索!



1 常設展観覧料が無料!

期間中、福岡市博物館・福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡県立美術館の常設展の観覧料、九州産業大学美術館の入館料が無料に!
<リーフレット持参で割引>

「博多町家」ふるさと館、王貞治ベースボールミュージアム、能古博物館の入館料、三菱地所アルティウムの入場料
(常時無料)はかた伝統工芸館、福岡市埋蔵文化財センター、九州大学総合研究博物館、西南学院大学博物館

2 スタンプラリーでプレゼントをGET! 財団賞もあり P15へ

13施設のうち2箇所のスタンプを集めると、抽選で商品がもらえます。

例) 特別企画展ペア招待券、レストランお食事券、お買い物券、博多座公演ペア招待券、ホークス公式戦観戦チケット、福岡オーブントップバスチケット、その他

3 楽しいイベントが目白押し!

普段は見るできない施設の裏側を見学するバックヤードツアーをはじめ、ワークショップや講演会など多彩なイベントを開催します。

NEW 大分県立美術館 OPAM 4月24日(金)開館

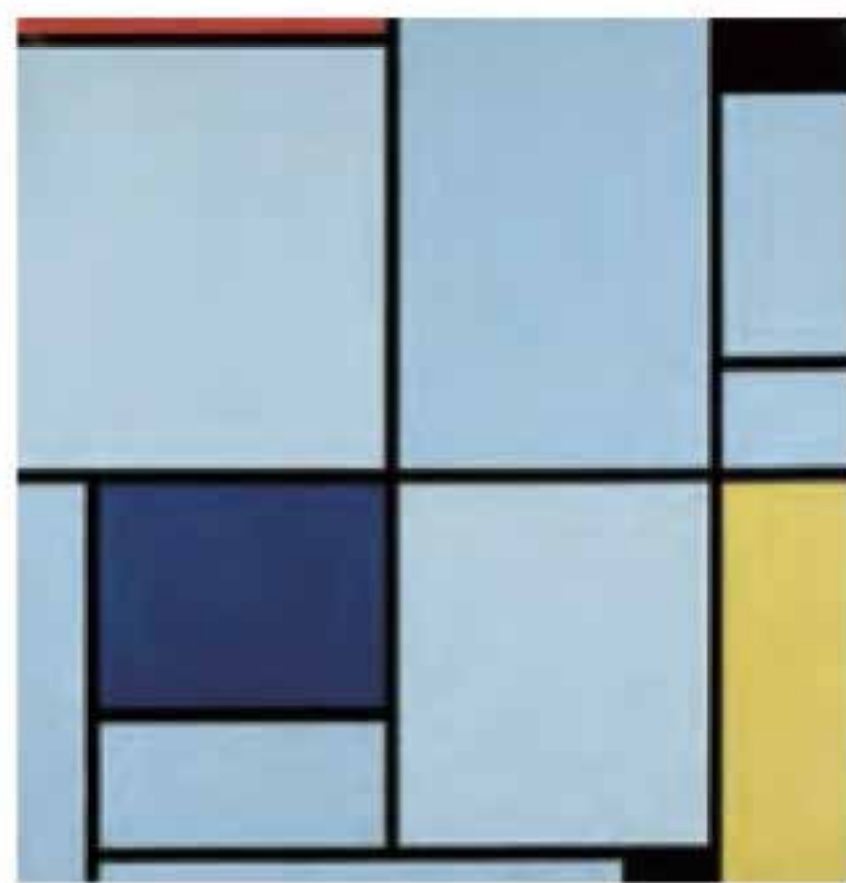


©Hiroyuki Hirai

開館記念展 vol.1

モダン百花繚乱
「大分世界美術館」
4月24日(金)～7月20日(月・祝)

国内外から伊藤若冲、横山大観、ダリ、ミロ、ピカソ、ルソー、モンドリアンら名品が200点以上大分に集まり、大分の傑作と出会うユニークな展覧会。



ピエト・モンドリアン《絵画I》
1921年 デン・ハーグ市美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag,
The Hague, The Netherlands

大分県立美術館 OPAM

大分市寿町2-1 10:00～19:00 (金、土曜は～20:00)
TEL:097-533-4500
HP: <http://www.opam.jp>

通りに音楽が溢れる10日間 けやき通り音楽祭

6月5日(金)～6月14日(日)

アートスペースやお洒落なカフェが軒を連ねる、福岡市けやき通りで「けやき通り音楽祭」を開催。街の有志をはじめ、音楽好きが集まり2012年にスタートし、4回目となる今年は、並木の緑が美しい初夏にかけて開催。風のささやき、鳥のさえずりを感じながら、極上の音楽と出会うチャンス。



● まちかどライブ

期間中けやき通りのカフェやレストランなど通りの店舗を会場としてライブを開催。会場○珈琲美美/ベニールカフェ/Gra*Pre/ギャラリー尾形/アンティークギャラリーヴァイア/ゼリージュ/東方遊酒菜ヌワラエリヤなど。○チケット制:1500円(予定) /1作品



● 藤原真理 チェロコンサート

共演:倉戸テル(ピアノ)
日時:6月14日(日)
開場 14:00 / 開演 14:30
会場:あいれふホール
入場料:前売4,000円

● 三浦一馬 バンドネオンコンサート

共演:村治奏一(ギター)
日時:6月6日(土)
開場 14:00 / 開演 15:00
会場:福岡市美術館 講堂
入場料:3,000円(自由席)

けやき通り音楽祭実行委員会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂2-6-27 (珈琲美美内)
TEL:092-713-6024
MAIL: mail@keyaki.st HP: <http://ongakusai.keyaki.st/>

店舗情報

konya-gallery - konya2023
福岡市中央区大名 1-14-28 第一松村ビル 201+202
10:00-19:00 TEL 092-984-6292
<http://konya2023.travelers-project.info/>



イベント情報
「紺屋2023夜会2015」
2015年4月1日(水)
18:00-22:00
詳しくはHPで

毎年1、2、3月には学生さん向けに学割料金も設定しています。どう使うかはアイデア次第のこの場所をぜひ使いこなしてみてください。もちろんイベントに足を運んでいただくのも大歓迎です!
紺屋2023マネージャー 宮崎由子

夏に主催しているサマースクールでは参加者たちが熱く議論を交わし合う教室と化し、スクールをきっかけに成就したカップルの結婚式場として利用されたことも。

Konya-galleryは2008年11月にドイツ人作家ミハエル・オットーの展覧会を皮切りに活動をスタートしました。konya2023の入居者の多様さと同様に、ギャラリーで開かれる催しも、アート、デザイン、演劇、ダンス、音楽、トーク、アパレルなど様々。床と天井はコンクリート剥き出しで古いビルの質感を残しつつ、周りを白い壁で囲まれたシンプルな空間が、使う人によって時には劇場に、時には展覧会場やショップに変身する様は本当に面白く、そんな場面に立ちあう度にスペースを運営する醍醐味を感じます。

表現が雑居するギャラリー

福岡
ギャラリー
さんぽ



セリフからはじめる演劇の話

「私の得意技、歌う捜査法です。 のべつまくなし歌います。」

突然ですが自分は親しい人に、
どうでもいい嘘をつくのが好き
です。例えば苺が嫌いな後輩に、
「ストロベリーの語源はギリ
シャ語で『ストウアロ(人生)』と
『ヴァリー(美しい)』から来てい
る」と言って更生を促そうとし
たこともあります。当然苺の語
源はギリシャ語じゃありません
し、そんな単語は存在しません。
また、自分が会話の中で数値を
引き合いに出す時は、大抵1.2
1.5倍に誇張された数字になりま
す。些細な悪戯心ですが、そうし
た絶妙なタイミングで微妙な嘘
をつこうとする事は、人生の趣
味であり、身勝手ながら親愛の
印でもあります。そしてそれは、
劇作に際しても同じです。

世界に違いありません。しかし
それらが現実にも劣らぬ
存在感を持った時、そこに広が
るのは紛れもない真実の世界と
なります。
冒頭で紹介した台詞は、つか
こうへいさんの『熱海殺人事件
ザ・ロンゲスト・スプリング』の
一幕での、破天荒で非常識な刑
事部長の台詞です。一見冗談と
しか思えないような滅茶苦茶な
事ですが、「この男ならやりかね
ない」と思わせるような説得力
と、そう思わせることを可能に
する世界観を、つかさんは持ち
前の独特な人物描写と台詞回し
で醸し出しました。こうした表
現を多用するつかさんの戯曲に
触れ、どんなに非常識な言葉で
も、それを真実に変えるだけの
世界と人物の重さに、自分は息
を呑みました。そこには『嘘』と
いう言葉の響きを持つ軽薄さに

似つかわしくない程の、一つの世
界で一つの人生を生きる人間の、
確かな息吹が感じられたのです。
そして、そうした台詞を支え
る世界観を形作るものの一つも、
また一つ一つの台詞です。
この事からも、たった一つの
台詞がどれだけ一つの戯曲に大
きな影響を与えるか、改めて想
像できると思います。世界を表
現すると同時に、物語の大きな
流れの一部となる様子は、例え
るなら生命の循環でしょうか。
何気ない台詞でも、一つとして
役割や伏線が仕込まれていない
ものは無いのです。

きのした ともゆき
木下 智之

1994年和歌山県生まれ。九州大
学に進学の後、同校演劇部にて
活動中。2013年に吸血鬼ドラ
キュラ伯爵のモデルとなった国
王の生涯を描いた史劇で、自身
初の本格長編でもある『喜劇ド
ラキュラ』を執筆。同作で、第6
回九州戯曲賞大賞を最年少受
賞。更なる喜劇の豊かさと、人間
の愛しさを求め、日々勉強中。

九州戯曲賞とは？

九州を拠点とする劇作家による作品を顕彰するため2009年創設。
最終審査員は九州にゆかりの深い著名な劇作家が務める。



© Kohei Kondo

Illustration: Kohei Kondo

おしゃべりな

学芸員



福岡市美術館 鬼本佳代子

ギャラリーガイドボランティアの密やかな野望!?

福岡市美術館では、この原稿を書いている現在、新規ボランティアさんの研修真っ最中です。そして、筆者を含む教育普及担当学芸員は、4つあるボランティアグループのうち、ギャラリーガイドボランティアの研修を担当しています。この研修、美術の楽しみを、まずはボランティアさん自身に実感してもらいたい!!というところで、作品について知識を得てもらうだけでなく、所蔵品の図版を使ってゲームをしたり、2人ペアになって、片方の人が目を閉じて、片方の人が美術館の中を案内したり、ワーワーキーカー言いながら行っています。「教育普及」というと堅苦しく思われがちですが、美術館の教育普及活動は、来館者もそしてボランティアも職員も楽しんでやる、それが基本だと思っています。

さて、研修の後、あるボランティアさんがこんなことを言いました。「鬼本さん、仮装してギャラリートークしちゃうんですか?」

自分も楽しみ、来館者も楽しむことに野望を持っているボランティアさんは既にいるようです。ボランティアによる常設展のギャラリーツアーは開館日の毎日11時と14時から行っています。もしかしたら、仮装したボランティアさんに会えるかも? 皆さん、ぜひご参加ください!

●ギャラリーツアー
開館日毎日2回実施
(11:00~、14:00~)



撮影:山崎信一



ペアになって片方の人は目を閉じて歩く。これもボランティア研修です

福岡市博物館 <http://museum.city.fukuoka.jp/> 招待券

5組
10名様

「福岡市博物館開館25周年記念
世界記憶遺産・山本作兵衛の世界—記憶の坑道—」

6月6日(土)~7月26日(日)

2011年5月、山本作兵衛氏の炭坑記録画と記録文書が、日本ではじめてユネスコ世界記憶遺産MoWに登録されました。本展では、貴重な炭坑記録画を多数公開し、山本作兵衛氏の描く幻想的な炭坑にご招待します。



©Yamamoto Family
田川市石炭・歴史博物館所蔵

締切 5月25日(月)

九州国立博物館 <http://www.kyuhaku.jp/> 招待券

5組
10名様

開館10周年記念特別展
「戦国大名—九州の群雄とアジアの波濤—」

4月21日(火)~5月31日(日)

16世紀後半の動乱の九州を駆けぬけた戦国大名、そして戦国の気風を受け継いだ豊臣大名の姿に迫る展覧会です。各大家家・菩提寺などで大切に守り継がれてきた肖像画、武具・甲冑類、遺愛道具のほか、海外交流にまつわる貴重な品々を公開。



締切 4月20日(月)

重要文化財 白檀塗浅葱系威腹巻 大友家寄進(展示期間:
4月21日~5月17日) 室町時代・16世紀 大分・杵原八幡宮蔵

福岡市文学賞

作品集
10名様

2014年度福岡市文学賞
受賞記念作品集をプレゼント

福岡市文学賞は、市及び福岡都市圏の作家を対象として優秀な作家を選出する賞で、昭和45年から続いています。今年度は小説・詩・短歌・俳句・川柳の5部門から7人が選ばれました。2014年度の受賞作品集を、10名にプレゼントします。



昨年度受賞記念作品集

締切 5月25日(月)

福岡アジア美術館 <http://faam.city.fukuoka.lg.jp/> 招待券

5組
10名様

木梨憲武展×20years
INSPIRATION-瞬間の好奇心

4月18日(土)~5月24日(日)

制作を始めた1994年頃の作品から最新作まで、約20年の間に制作された絵画を中心に、ドローイング、オブジェ、映像、グラフィック、ピースコラボなど、約300点の作品の数々で、独創的な「木梨ワールド」を展示します。



©NORITAKE KINASHI/撮影:高橋宗正

締切 4月20日(月)

福岡市美術館 <http://www.fukuoka-art-museum.jp/> 招待券

5組
10名様

「アンコール・ワットへのみち 神々の彫像」展

4月28日(火)~6月14日(日)

9~15世紀にかけてインドシナ半島で強大な勢力を誇ったアンコール王朝は、世界遺産アンコール・ワットに代表される豪壮華麗なヒンドゥー教・仏教の石造美術を残した。本展は、8世紀以前のプレ・アンコール時代からアンコール王朝の時代を網羅した丸彫り石像群を核として、インドシナ半島における豊かな宗教彫刻の造形美を紹介する。



ブラフマー像 カンボジア10世紀

締切 4月20日(月)



読者プレゼント!

下記を明記のうえ、郵便ハガキ、FAX、またはメールにてご応募ください。

- ① ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- ② 住所・氏名・年齢・電話番号
- ③ 「wa」を手にした場所
- ④ よかったページ
- ⑤ 興味がなかったページ
- ⑥ 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- ⑦ 本誌や財団に期待すること、ご意見など

応募先

福岡市文化芸術振興財団 「wa」編集部
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10福岡県消防会館6F
Fax:092-263-6259 Email:pr-co@ffac.or.jp

FFAC INFORMATION

各イベント情報の問い合わせ先

TEL: 092-263-6265 FAX: 092-263-6259 E-mail: pr-co@ffac.or.jp

最新情報は財団ホームページをチェック!! <http://www.ffac.or.jp>

シンポジウム

FFAC・九州大学連携 舞台芸術人材育成事業

「演劇づくりのための10アイテム」

シンポジウム 『公共劇場と地域の芸術団体』

「劇場法」を踏まえ、これからの公共劇場に求められる社会的な役割や地域特性などをとらえながら、各地の先事例を知り、福岡における公共劇場と芸術団体のこれからの可能性や課題について共に考えるシンポジウムです。



日時: 3月26日(木) 19:00~21:30 (18:30開場)

会場: あじびホール(福岡アジア美術館8階)

ゲスト: 岩崎正裕(劇団太陽族 主宰)

矢作勝義(穂の国とよはし芸術劇場 事業制作チーフ)

百瀬友秀(M.M.S.T代表)

対象: 地域の芸術団体関係者(表現者や制作者)、

公共劇場等関係者、その他関心のある方

参加費: 無料(定員あり・要事前申込)

申込方法: お電話またはEメールにて、必要事項(①お名前②ご所属(あれば)③連絡先お電話番号④来場人数)を添えてお申込みください。

お申込み: (公財)福岡市文化芸術振興財団 事業課: 中原

TEL: 092-263-6265 E-mail: npo-b@ffac.or.jp

【主催】(公財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市

【協力】国立大学法人九州大学大学院芸術工学研究院、NPO 法人FPAP

平成26年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

演劇

第9回福岡演劇フェスティバル

「舞台芸術見本市」をテーマに、地元の劇団はもちろん、全国で幅広く活動している表現者やユニットが福岡に大集合する『福岡演劇フェスティバル』が、福岡市内3会場で開催されます。舞台芸術の素晴らしさをぜひ体感してください。

日時: 5月6日(水・祝)~5月31日(日)

会場: 西鉄ホール、イムズホール、ぼんプラザホール

【公演スケジュール】

■不思議少年『棘』

5/6(水・祝) 西鉄ホール

■HOLIDAYS『Double Invitation -或は、招かれなかった者の宴-』

5/10(日) 西鉄ホール

■岡崎藝術座『+51 アピアシオン、サンボルハ』

5/10(日) イムズホール

■FFAC企画 創作コンペティション

『一つの戯曲からの創作をとおして語ろう vol.5 上演審査』

5/22(金)~23(土) ぼんプラザホール

■(劇)池田商会企画 瀧猫亭『末枝の沙果』

5/23(土)~5/24(日) 西鉄ホール

■アマヤドリ『ぬれぎぬ』

5/30(土)~31(日) 西鉄ホール

お問合せ: NPO法人アートマネジメントセンター福岡

TEL: 092-752-8880

福岡演劇フェスティバルFFAC企画

創作コンペティション

「一つの戯曲からの創作をとおして語ろう」vol.5

上演審査

隔年開催、舞台演出家のコンペティションの5回目。全国公募で書類審査、プレゼン審査を勝ち進んだ注目の若手演出家3名が福岡で作品を上演します。課題戯曲は三島由紀夫作、近代能楽集より「葵上」。23日の上演後に行われる公開審査会は、日本現代演劇のトップを走る演出家たちが審査を務めます。次世代の才能を、ぜひ福岡でご覧ください。

日時: 5月22日(金) 19:00、23日(土) 13:00

会場: ぼんプラザホール

※23日13:00公演終演後に、舞台上で審査員による公開審査会あり。最優秀作品賞を決定。

審査員: 岡田利規(チェルフィッチュ) 前川知大(イキウメ) 松井周(サンプル) 森山直人(演劇批評家) 山田恵理香(空間再生事業劇団 GIGA) 山田真実(ttu/コンペティション vol.4 最優秀作品賞受賞)



前回の様子

文化芸術サポーターを募集中!

入会すると特典がいっぱい!!

平成27年度 賛助会「わの会」

福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館・九州産業大学美術館の常設展が何度でも無料で観覧できるほか、文化芸術情報の定期送付、会員限定イベントを開催します。

[種類/有効期間/会費]

- ◆個人会員
 - 全期 2,000円 H27年 4月1日～H28年3月31日
 - 半期 1,500円 H27年10月1日～H28年3月31日
- ◆法人会員
 - 全期10,000円 H27年 4月1日～H28年3月31日

[入会受付場所]

- 文化芸術情報館アトリエ
(福岡アジア美術館7階)
- 福岡市美術館ブックショップ
- 福岡市博物館ミュージアムショップ

[問い合わせ]

- (公財)福岡市文化芸術振興財団
- TEL 092-263-6257
- FAX 092-263-6259
- Email wa@ffac.or.jp

福岡ミュージアムウィーク企画 ▶▶▶ 詳しくはP11へ

お知らせ

ミュージアムグッズ ～10円絵はがきセール～

福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館収蔵品の絵はがき(一部)を税込10円で販売します。数量限定のものもありますので、お早めに。

- 開催日: 5月16日(土)～24日(日) ミュージアムウィーク期間中
- 場所: 福岡市美術館ブックショップ
福岡市博物館ミュージアムショップ



スタンプラリー&抽選企画

FFACオリジナルおさんぽバッグが当たります!



図録にぴったりのA4サイズ!

FUKUOKA OSANPO bag

イラストは福岡在住の吉岡恵さんが手がけました。福岡の観光名所がかわいく描かれています。福岡市博物館・美術館ミュージアムショップの包装紙も同じデザインです。



イベント

フリーマガジンフェア vol.3 ～お気に入りを見つける!新しい本のかたち～

「フリーマガジン」「フリーペーパー」をあなごころなかれ!街で配られている広告やクーポンがたくさん載った冊子ばかりでなく、わざわざもらいに行きたくなるほど素敵なものが増えています。



アトリエでは今年も、全国から魅力的なフリーマガジンを集めてご紹介します。

ぜひお気に入りの一冊を探してみてください。数量限定でお持ち帰り可能な冊子もあります。

日時: 5月16日(土)～24日(日) 10:00-20:00(水曜休館)
場所: 文化芸術情報館アトリエ
(福岡市博多区下川端町3-1 福岡アジア美術館7階)
料金: 無料
お問合せ: 文化芸術情報館アトリエ
TEL: 092-281-0081

募集

第4回青木繁記念大賞西日本美術展 作品公募

「青木繁記念大賞西日本美術展」は青木繁の画業の顕彰とともに洋画家の発掘・育成、その研鑽の場として開催してまいりました。今回は審査員の大幅な刷新とともに、若き作家の登竜門として「西日本新聞社新人賞」を設けました。筑後の芸術文化をさらに発展させていく美術展に多くの人々の出品をお待ちしております。

受付期間: 4月1日(水)～4月30日(木)
受付方法: 第4回青木繁記念大賞西日本美術展募集要項・HPに応募申込用紙を掲載しています。
お問合せ: 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015
(公財)久留米文化振興会内
青木繁記念大賞西日本美術展実行委員会事務局
TEL: 0942-31-8710 FAX: 0942-39-7837
HP: <http://www.aoki-nishinippon.jp>

【編集後記】

今号より、編集担当が交代しました。よろしくお願ひします。取材では、たくさんの方々のアーティストや画廊、芸術に関わる方々とお会いしました。そこで聞くお話はとても魅力的で、この限られた誌面にはとても書ききれない熱い思いが沢山です。そして作品はやはりLIVEで観るのが一番。だから、waを手にとりて頂いた皆様には是非それぞれの場所に足を運んで頂きたいと思ひます。きっと新たな人やアイデアに出会えるはず。そんな思いを込めて楽しい紙面づくりに取り組みます。作本

コレクション展示

小鳥が一羽



い

かぞえて

かくれた数をさがす旅

楽しむ。

三色の馬です



ろ

2015.1.24 (sat) — 4.12 (sun)

◎開館時間 = 10:00—17:00 (入館は16:30まで) ◎休館日 = 月曜日
◎入場料 = 一般500円(400円) / シニア300円(200円) ※シニアは65歳以上
大高生300円(200円) / 中学生以下無料 ※()内は15名以上の団体料金
◎前売券 = 300円 ローソンチケット、チケットぴあ取扱店にて販売
(Lコード81976 / Pコード766-538)



は

画家の年齢に注目!

実は五角形



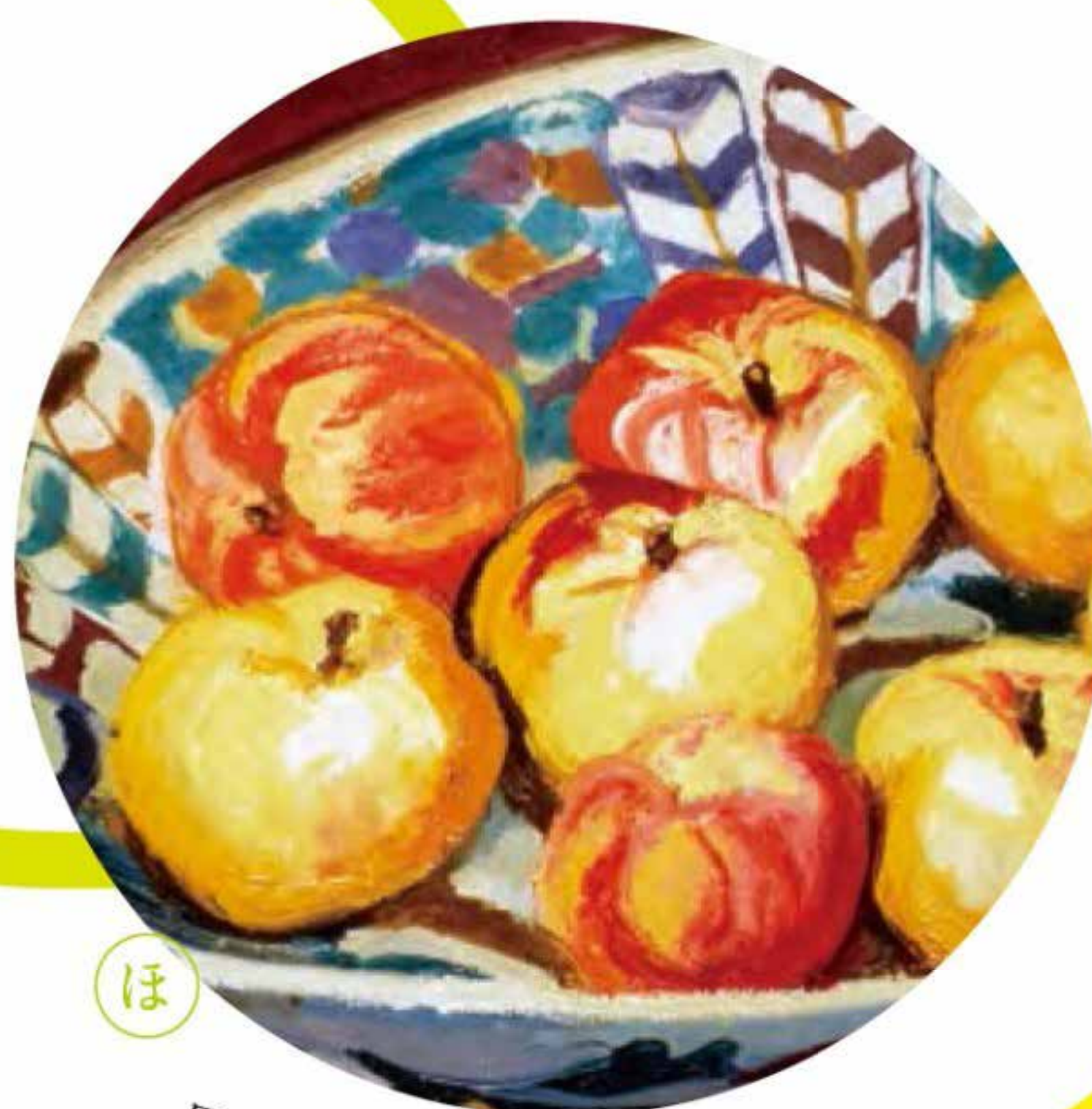
に

い：竹内栖鳳《錦秋図》(部分)
ろ：《三彩馬》
は：黒田清輝《針仕事》(部分)
に：《五角小瓶》
ほ：安井曾太郎《りんご》(部分)
へ：古賀春江《円筒形の画像》(部分)



へ

これはどんな数?



ほ

思わず数えたくくなります



石橋美術館

公益財団法人 石橋財団

ISHIBASHI MUSEUM OF ART
ISHIBASHI FOUNDATION

主催 = 石橋財団 石橋美術館、TVQ九州放送
後援 = 久留米市、公益財団法人久留米文化振興会
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015
TEL 0942-39-1131
URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>

福岡から久留米まで
電車で約30分!

※西鉄・特急、JR・快速ご利用の場合